



11月26日号 - 情報交差点 -  
 地域福祉の轍（わだち） ～グループホームと自治会の交流～

NHKの取材を受けました。

全国各地で“グループホーム”の建設が進められているが、地元の理解と協力がなかなか得られずに暗礁に乗り上げているケースも多い。広島県安佐北区亀山南のグループホーム「はるかぜ」は自治会と勉強会や交流を重ね「協定書」を締結、協力体制を築き上げた。11月18日に行われた集会所祭りでの交流の様相を取材した。

\*グループホーム：痴呆性老人を対象とし家庭的な環境の中で生活する9人以下の小規模な施設 リポート：広田綾子



集会所祭りで94歳石田道俊さんのお餅つき



野菜売り場を担当する「はるかぜ」のお年寄りたち



グループホーム「はるかぜ」代表国松浩司さん



長井自治会 寺本克彦さん



「はるかぜ」の玄関でホーム長 坂本真琴さん（左から二人目）とお年寄りたち

### 協定書 第一条（目的）

本協定は、長井自治会並びにグループホーム「はるかぜ」が、次の目的を達成するために締結するものである

1. 長井地域の福祉の向上
2. 長井地域の活性化
3. 福祉施設グループホーム「はるかぜ」の健全な運営
4. 福祉施設グループホーム「はるかぜ」への地域支援
5. 長井自治会とグループホーム「はるかぜ」との円滑な協議、連携



長井自治会会長 二井谷正勝さん

会長は「自然体と一緒に生活すればいい」と

長井地区の奥様たち右から一人目が岡本信恵さん



祭りのために「はるかぜ」の畑で収穫



畑からの帰り



「はるかぜ」夕食後の団欒